

シヤイ

手前が非分なれば、命をお取り下さい！ 手前は正義を要求します、證書通りの科料を要求いたします。

ホオシ

商人は金を能い拂はんのか？

ハッサ

いや、金は、わたくしが彼れに代つて支拂ひます、元金の二倍にいたしました。若しそれで足りませねば十倍にもして支拂ひます、わたくしの手なり、首なり、心の臓なり、抵當にいたしましたも。それでも足らぬと申すやうでありますれば、正義呼はりは表向で、底意は害心に相違ございません。願はくは政府の御権力を以て、大義の爲に、聊か法律を曲げられまして、此人非人を御制肘下されたい。

ホオシ

いや、それは出来ん。エニス中の如何なる権力を以てするも、定まつたる國家の法令を改めることは出来ん。一度例を作ると、それが原で、種々の間違が續出して、長く國家のわづらひとなるから、さういふことは出来ん。

シヤイ

ダニエル様の再来だ！ 全くのダニエルさんだ！ 若いには似合はん恐れ入つた賢明な裁判官さんだ！

ホオシ

どうか其證書を見せてくれ。

シヤイ

はい、これにございます、憚りながらこれにございます。

ホオシ

シヤイロック、此金額を三倍にして返済しようと申してをるぞ。

シヤイ

誓言、誓言、手前は天帝に誓言しました。我靈魂に虚誓言の罪が負はされませうか？

ホオシ

いや、それは、エニス一國に代へても出来ません。

シヤイ

さて、此證書は、已に期限が切れてをるから、猶人は之によつて正當にその商人の胸元から肉一ポンドを切取る権利がある。……慈悲をかけてやれ。

シヤイ

三倍の金を受取つて、此證書は子に裂かせてくれ。

シヤイ

證書面通りの支拂さへ濟みますればね。貴下はお立派な裁判官さんでお

シヤイ

あんなさるらしい。法律をよく知つてお出なさるし、解釋の仕方も堅固

シヤイ

あんなさるらしい。法律をよく知つてお出なさるし、解釋の仕方も堅固

したもんだ。わしは貴下を立派な國家の法律の柱石だと思ひますから、其法律を盾に、わしは貴下に言ひます、すん／＼裁判をなさい。靈魂をかけた誓言します、人間の舌の力ではわしの心を變へさせることは出来ません。是非證書通りに願ひます。

アント わたくしも切に願ひます、どうか御裁判下されますやうに。

ホオシ では是非に及ばん。其方の胸へ彼が刃物を受ける準備をせい。……

シヤイ お、公明正大な裁判官！ 若いに似あはん偉い人だ！

ホオシ 蓋し此證書面に認めてある科料は、法律の意義並びに目的上より見て、十分認せらるべき性質のものである。……

シヤイ 全く其通り。お、賢明な、公平な裁判官！ まあ／＼お前さんは、見かけよりはすつと／＼老成な偉いお方だ！

ホオシ それゆゑ、胸元を開け。



Miss Ellen Terry as Portia

シヤイ はい、胸でございます。さう證書に書いてあります。でございませう。

「すぐ胸元より」と書いてございます。

ホオシ さやう。……肉の重さを量る秤器はあるか？

シヤイ 準備してをります。

ホオシ シヤイロツク、其方自辨で外科醫者を呼寄せておけ、傷口をとめんと、出血の爲に命を失ふかも知れんから。

シヤイ そんなことが證書に書いてございますか？

ホオシ 書いてはないが、その位の情は、かけるのが當然ぢや。

シヤイ 見附かりません。證書に見えませんか。

ホオシ 商人、何か申し残すことがあるか？

アント たゞ聊か。覺悟はとうに致してをります。……バッサニオさん、お手を。

御機嫌よろしう！ わたしが貴下の爲に斯ういふことになつたからとい

つて、歎いて下さるな。運命の神が、わたしに對しては、まだしも深切にしてくれます。不幸な人間を零落させて財産に離れさせながら、一思ひに死なせもしないで、額に皺を湛へた凹んだ目で吾と我貧窮を眺め暮させるのが例であるのに、その悲惨だけはまぬがれさせてくれます。どうぞ奥さんへよろしく。アントニオは如何して死んだか、どんなに貴下を愛してゐたか、有體に懇ろにお話しなすつて、奥さんに判断して貰つて下さい、嘗てバッサニオさんに一人の心友があつたと言へるか如何かを。貴下が親友を失つたと悔んで下されば、わたしは貴下の爲に負債を拂ふのを決して悔みません、其證據には、若し猶人がすつと深く切れば、(笑を含みて) わたしは眞に全心を傾けて拂ふのです。

バッサ

アントニオ、わたしは今現に生命其者程に大切な妻を娶つてゐる。けれども、生命其者も、その妻も、全世界も、わたしに取つては、お前さんの命以

上に貴いものではない。わたしは何もかも棄て、しまふ、みんな犠牲にしてかまはないから、どうかしてお前さんを此惡魔から救ひたいのです。

ボオシ

(獨語のやうに) 若し細君が傍にゐて、さういふことをお前さんが言ふのを聞いてゐたら、餘り有難かりもすまいね。

グレシ

わたしにも妻があつて、それを非常に愛してゐるんだが、いつそ死んで天にゐたら、言傳手をして神様に直訴して、此狼のやうな猶人の心を入替させて貰ふものをなあ!

ネリッサ

(獨語のやうに) さういふことは、細君に聞えない處で言はないと、家庭に風波が起りますよ。

シヤイ

基督教信者の男共は皆如是だ。おれにも一人娘がある。基督教信者を夫に持たす位なら、バラバス(強盜)の血統の者に連添はせはうが優だ! :

：時間が費えます。どうか御宣告を願ひます。

ボオシ

そこにゐる商人の肉一ポンドは其方の物である。法庭が之を是認して、法律が之を其方に與ふる。

シヤイ

公明正大な裁判官！

ボオシ

すなはち其方みづから手を下して彼が胸元から其肉を切取らねばならんぞ。法律は之を許可し、法庭は之を是認する。

シヤイ

最も博學なる裁判官！……宣告だ！ 覺悟しろ。

ボオシ

ちよと待て。まだ申すことがある。此證書には、血は只の一滴たりとも其方に與ふると書いてない。明瞭に「肉一ポンド」とのみ記してある。然る上は、證書面通り肉一ポンドを取れ、併しながら若し之を切取るに當つて、基督信者の鮮血を只一滴でも灑ぐに於いては、其方の地所も家財も、エニスの國法によつて、悉く之をエニスの國庫に沒收いたすぞ。

グレシ

お、公明正大な裁判官！ どうだ、猶人。お、博學なる裁判官！

シヤイ

それが法律でございますか？

ボオシ

自身の目で其條文を見るがよろしい。畢竟其方が一へに嚴重な證書面通りの裁判を申し乞ふが故に、おのれが望み以上の、嚴重な裁判を受けなければならんのおやと覺悟をせい。

グレシ

お、博學なる裁判官！ どうだ、猶人。成程博學な裁判官さんだ！

シヤイ

では彼の申出通りにします。證書を三倍にして拂へば、あの基督信者を許してやります。

バッシ

その金はこゝにある。

ボオシ

待て！……猶人はあくまでも法律の明文通りの裁判を要求してゐるのである。待て！ 急ぐに及ばん。猶人は科料以外何物をも受取るべきでない。……

グレシ おゝ猶人！ 公明正大な裁判官、成程博學な裁判官！

ボオシ であるから、肉を切取る準備をせい。血を流してはならんぞ、また肉は丁度一ポンドより以外、多くも少くも切取ることとはならんぞ。若し聊かでも、丁度一ポンド以上又は以下を切取るに於ては、よしそれが、たかが一分又は一厘ほどの軽重であるとも、いや、只髪の毛一筋だけの量目の差を秤皿の上に生ずるに於ては、其方の命は無いぞ、其方の財産は悉く國庫に沒收いたすぞ。

グレシ 今ダニエルさんだ、成程、今ダニエルさんだ！ どうだ、罰當り、降参したらう。

ボオシ なせ猶人は躊躇してゐる？ 科料を取れ。

シヤイ 元金だけを受取つて歸らせて貰ひたい。

バツサ とうから渡さうとしてゐるのぢや。こゝにある。

ボオシ いや、彼は公けの法廷に於てそれを受取らんと申したのである。彼は只法律通り、證書通りの科料の外を受取ることとは相成らん。

グレシ いや、以てダニエルさんだ、今ダニエルさんだ！ おゝ、猶人、好い言葉を教へてくれて難有う。

シヤイ 元金だけでも受取れませんか？

ボオシ 其方が受取るものといつては、命がけで切取るべき科料の外には無い。

シヤイ ではうぬ、どうとも勝手にしやあがれ！ もう論判は無益なこつた。

ボオシ 待て、猶人。其方にはまだ法廷の御用がある。エニス市の法律によると、外國人が、直接若しくは間接の方法を以て當エニス市民を殺さうとした場合に、それが露見に及べば、其財産を二分して、被害者たらんとせし者は其一半を取り、他の一半は國庫に沒收する規定である。而うして其犯罪者たる者の一命は、一へに公爵の御仁恕に任せ、何者も之に對して異

議を申し立てることの出来んことになつてゐる。其方の罪状は正にそれに相當する。直接又間接にそれにある商人の命を奪はんと企てたことが明瞭であるから、只今申し聞かせた罪科はまぬがれんぞ。であるから、速かに土下座をして公爵のお慈悲をお願ひ申せ。

グレンシ
自分で首を縊つて死ぬお許可でも願ふがいゝ。併し財産は悉く没收されてしまふのだから、細を買ふだけの餘裕もないだらう。だから、政府の費用で以て首を縊めて貰はんければなるまい。

公爵
吾々の精神の其方と異なることを知らせるために、願を聴くまでもなく、其方が一命は赦してやる。さて財産は、一半はアントニオに取らせ、他の一半は國庫に収める。但し全く悔悟すれば、或は科料だけで差許すかも知れん。

ボオシ
さやう、アントニオの分は格別として、國庫へお收の分はさやういたして

もよろしうございます。

シャイ
いゝや、命も何にかも取つて下さい。赦して貰ふには及ばん。家を支へてゐる大柱を取られるのは家を取られるのだ。生活の資本を取られるのは命を取られるのだ。

ボオシ
アントニオ、其方は彼に對して何等かの慈悲を掛けて遣はす氣かり！

グレンシ
無料で首縊る繩を一筋。其他に何がやれるものか、あの罰當りに。

アント
憚りながら公爵閣下をはじめ御列席の方々へ、猶人が財産の一半は科料でお赦しになりますやう願ひます。残る一半は、若し當分の間手前に預け置きくれますれば満足にござります、右は猶人の死後に至りまして、先頃窃に彼れが女と共に遠國いたしましたロレンゾと申す青年に引渡すこととにいたします。尙別に二ヶ條のお願がござります。すなはち此御仁恵に對して、彼が速かに基督信者に相成るといふこと、次に、死後一切の

財産を女夫婦に譲るといふ證書を此法廷に於て認めまするやうお吩咐を願ひたうございます。

公爵 その通り申し附けやう。もし否むに於ては、只今言ひ渡した赦免をも取消す。

ボオシ 猶人、よろしいか？ どうぢやなり？

シヤイ よろしうござい
ます。

ボオシ 書記役、財産讓
渡の證書を。

シヤイ どうかお暇を下
さいまし。病氣
にございます。



公爵 證書は後からお送り下さい、宅で記名いたします。

グレシ 歸つてよろしい、が、命令通りにいたせ。

おい、洗禮を受けるには、立合人が二人要るぞ。だが、若しおれが裁判官であつたら、立合人をもう十人ふやして、貴様を洗禮盤よりも絞罪臺へつれていつたものをなあ。

シヤイ ロック 入る。

公爵 どうか、邸までお出下すつて、御會食が願ひたい。

ボオシ ありがたうございますが、どうか御容赦を願ひたうございます。わたくしは今晚の内にバデューアへ参らんければなりませんので、直さま出立いたすのが順當と存じます。

公爵 御都合がわるいとは残念なことで。……アントニオ、よくお禮をするがい、お前は全く此方のお底で助かつたのぢや。

公爵及び其従者 入る。

バッサ

謹んでお禮を申し上げます。わたくし並びにわたくしの信友は、今日、閣下の賢明な御裁判によつて、一命にかゝりまする科料をまぬがれました。つきましては、猶人に遺しまする筈の此三千兩を、喜んで閣下に献上いたしました。聊か御厚志に報ひまする當座の章といたしまして……

アント

尙此後幾久しく、今日の御恩を忘れませんで、愛敬の誠意を致したいと存じます。

ホオシ

自分で満足してをる者は、既に報酬を得てをるのです。 わたくしは貴下を救ひ得たので自ら満足してをるのですから、すなはち最早已に報酬を得てをるのです。 わたくしは曾てそれ以上の報酬を望んだことはありません。どうか又お目にかゝる時分にお見知りおきを願ひます。 御機嫌よう。これでお別れします。

バッサ

失禮ながら、是非とも押返してお願ひ申さねばなりません。 何かわたくし共からお持歸りを願ひたい、記念として、謝禮と申す譯ではなく。 どうか二つの事を御許容願ひたい、御辭退をなさらないこと、失禮をお赦し下さることを。

ホオシ

それほどにおつしやるから仰に従ひます。(アントニオに) 貴下の手袋をいただきます、記念として身に附ませう。(バッサニオに) それから、貴下の御好意に對して、その指輪をいただきます。 手を引込めちや不可ません。 他に何もいただきはしない。 御厚誼のお有りなさる以上、それを否とはおつしやるまい。

バッサ

此指輪は、どうも困りましたねえ、こりや粗末いのです！ 如是物をさしあげては、わたくしの耻辱になります。

ホオシ

その他は、何もいただきたくありません。 非常にそれが欲しくなつて

來ました。

バッサ これには、價値以外の、據ろない仔細があります。エニスちうで最高價の指輪を献すること致しませう、廣告して搜し出して献じます。こればかりは、何卒御免を蒙ります。

ホオシ 貴下は、御吹聴だけは、中々大氣なお方です。最初わたくしに強乞れとお教へになつたのですよ、さうしておいて、強乞る奴は、畢竟どういふ待遇を受けるかといふことを改めてお教へになつたのですね。

バッサ 實はその、此指輪は、妻がわたくしにくれましたのです。さうして、これをわたくしに穿めさせました時に、妻が、決して手離してはならん、遣つてはならん、失してもならんと、わたくしに誓言をさせたのです。

ホオシ さういふ口實は、人に物を遣るまいと思ふ時に、多くの人の役に立ちます。若し貴下の細君が狂女でなくつて、其指輪ぐらゐは頂戴してもよい功勞が

わたくしに在るといふことを御承知なされば、貴下がそれをわたくしに下さつたつて、いつまでも敵意をお抱きなされることもあるまいと思ひます。いや、御機嫌よう！

ホオシヤとネリッサと入る。

アント バッサニオさん、指輪をあなたの方にお遣しなさい。奥さんの命令でもあらうけれど、あの人の功勞とわたしの友誼とを以てそれに易へて下さい。

バッサ さ、グレシヤノ、君走つていつて、追付いて、あの仁に此指輪を渡して、成らうことならアントニオの邸まで連れて来て下さい。早く！ 急いで。……

グレシヤノ入る。

二人ともに入る。

さ、貴下とわたしは、すぐにお宅へ往くことにしよう。さうして明朝は、朝早くベルモントの方へ飛出すことにしませう。さ、アントニオ。

第二場 同處。街上。

ボオシ 猶人の宅を尋ねあて、此證書を手渡しして、記名をさせとくれ。今夜の中に出立して、夫たちよりは一日前に歸りませう。此證書を見たらロレンゾが嘸喜ぶだらう。

グレシヤノ出る。

グレシ 若先生、あゝやつと追付ました。主人バツサニオが考へ直して此指輪を献ずることにいたしました、相願はくは、御臨席を乞ひまして、粗酒を献じたいと申しをります。

ボオシ それは出来ませんが、指輪は最も喜んでいたゞきます。どうかさうおつ



しやつて下さい。更にお願ひは、どうか此青年にシャイロツクの宅を教へてやつて下さい。

グレシ 承知しました。

ネリツサ (ボオシヤに) 貴下、一寸お話申したい。(ボオシヤだけに) わたくしの夫の指輪も、取れるかどうか試つて見ませう、あれも一生手離しちやいけないと誓言させておいたのです。

ボオシ (ネリツサだけに) きつと取れる

よ。決して女に遣つたんぢやないつて、そりや必然おそろしく主張るだらうよ。けれどらわたしたちは夫たちを恥ぢしめて言ひ負かしてやるわね。(大きな聲で) 早く！ 急いで。わたしの待つてる場所は承知だらうね？

ネリッサ さ、貴下、其家へ御案内を願ひます。

皆々入る。

*
*
*
*
*
*
*
*
*
*
*
*
*
*
*
*

第五幕

第一場 ベルモント。ボオシヤ邸への小徑。

ロレンゾとジエシカと出る。

ロレン あゝ好い月だ。ちやうど如是晩であつたらう、氣持の好い風が、窈と樹の葉を鳴らさない程に接吻して行く、ちやうど如是晩であつたらう、王子のトロイラスが、トロイの城壁に攀登つて、クレシダ姫が臥てゐるギリシヤ

の陣屋の方へ向いて、深い切ない溜息を洩したのは。

ジエシ
ちやうど如是晩でしたらう、處女のシスビが、怖々露を踏みしだいて、約束の場所へは往つたものゝ、戀人の來ないうちに獅子の影が見えたので、驚いて逃げてしまつたのは。

ロレン
ちやうど如是晩だつたらう女王のダイドーが、柳の枝を手に持つて、荒海の磯際にたゝすんで、もう一度戀人をカーセージへ招き返さうとしたのは。



ジエシ
ちやうど如是晩でしたらう、魔法使ひのメディヤ姫が、老翁のイソン王を若

返らせる爲に、靈藥の草を集めたのは。

ロレン
ちやうど如是晩だつたね、猶人の娘のジエシカが、金持の親父をだまくらからして、ろくでなしの情夫と一しよにエニスを拔出して、ベルモントまで騙落したのは。

ジエシ
ちやうど如是晩でしたね、ロレンゾといふ若い人が、可愛い、好いたのと、口から出放題の誓言をして、さんざつばら彼娘をだましたのは。

ロレン
ちやうど如是晩だつたね、可愛いジエシカが、小ちやい婢左衛門のやうに、亭主の悪口をするのを、亭主がだまつておとなしく聽いてゐたのは。

ジエシ
如是晩盡しをするのなら、夜通しかゝつたつて負けやし無いのだけれど、ね、誰れか來たわ。……そら、足音がするでせう？

ステファノ出る。

ロレン
何人です？ 寂とした此夜中に、そんなに大急ぎでやつて來るのは？

ステフ わたくし。

ステフ

わたくし！ わたくしとは？ どなたです？
ステファノです。お姫さまは夜明前にお著になります。只今、途々の十字架を一々に御参拜遊ばして、おめでたい御結婚の將來を祈願してゐらつしやいます。

ロレン

だれが御一所です？

ステフ

お上人さんとおの腰元さんばかりでございます。殿さまは、まだ御歸邸になりませんのですか？

ロレン

まだです。まだ何のお便りもありません。……とにかく奥へ往かうよ、ジェシカ、さうして相當の儀式を整へてお姫さんのお歸りを迎へよう。

ランス、ロット出る。

ランス

ソーラ、ソーラー！ ウォーハー、ホー！ ソーラ、ソーラー！

ロレン

だれだ呼ぶのは？

ランス

ソーラー！ 若しや此邊に、ロレンゾの旦那とロレンゾの細君は居ませんでしたかね！ ソーラ、ソーラー！

ロレン

おい／＼呼號るのは止しな。こゝにゐるよ。

ランス

ソーラー！ 何處だね？ え、何處だね？

ロレン

こゝだよ。

ランス

どうか彼仁に知らせてやつて下さい、御主人から飛脚が來たつてね。彼の喇叭は吉左右で一ぱいでさあ。で、御主人には、いよく夜明前に、お著到と御座い。

ランス、ロット入る。

ロレン

ちや、入らうよ、さうして彼方でお歸りを待たう。……が、それにも及ばないね。入る必要もないか。……ステファノさん、どうか貴下奥へ知らせ

下さい、お姫さまは最早直にお著だつて。それから樂人たちを戶外へ出張させて下さい。……

ステファノ 入る。

どうだい此芝堤にはんり映る月の影の美しいこと！……ここに二人で腰を掛けて、そよ〜と聞えて來る樂の音を聞かうよ。うつくしい樂の音と此間とした夜の静かさは善い鹽梅に調和するよ。ジェシカ、お掛けよ、御覽、天の床は、まるで燦然した金の小皿を一ぱいに敷並べたやうだ。あのうちの一番小さい星だつても、あゝして空を廻轉する途々、天使のやうな美しい聲をして歌を唱ふんだとさ、嬰兒のやうな目附をした天童たちが天樂を奏するのに合せて。人間の靈魂だつて、やつぱり然ういふ音樂を奏するんださうだが、——此滅び行く穢い泥の衣服に包まれてゐるから、我々の耳には聞えないのだ。……

音樂者共出る。

さあ〜！ 眠てゐるお月さんを讚美歌で以て起して下さい。それから早速お歸りなさるやうに、ふるひつくやうな面白い曲を奏して、お姫さまのお耳をえぐつて下さい。

ジェシ

わたし些とも面白かないわ、好い音樂を聞いたつても。

ロレン

それはお前さんがあんまり眞劍になるからさ。何故つて、あのあばれ盛りの家畜や、まだ馴らされてゐない若駒なんかでも、狂氣のやうに跳廻つて、吼えたり高嘶したりするのが彼奴らの血氣壯んな證據でもあり持前でもあるのだが、あれらでも、若し偶然と喇叭の聲を聞いたり又は何か音樂の調を聞いたりすると、いつの間にか立止つて、其あらく〜しい目の色までも溫柔やかな目付になる、それは全く音樂の魔力なんだ、それだから詩人が、昔オルフェウスといふ樂の名人があつて、音樂の力で、木をも石をも

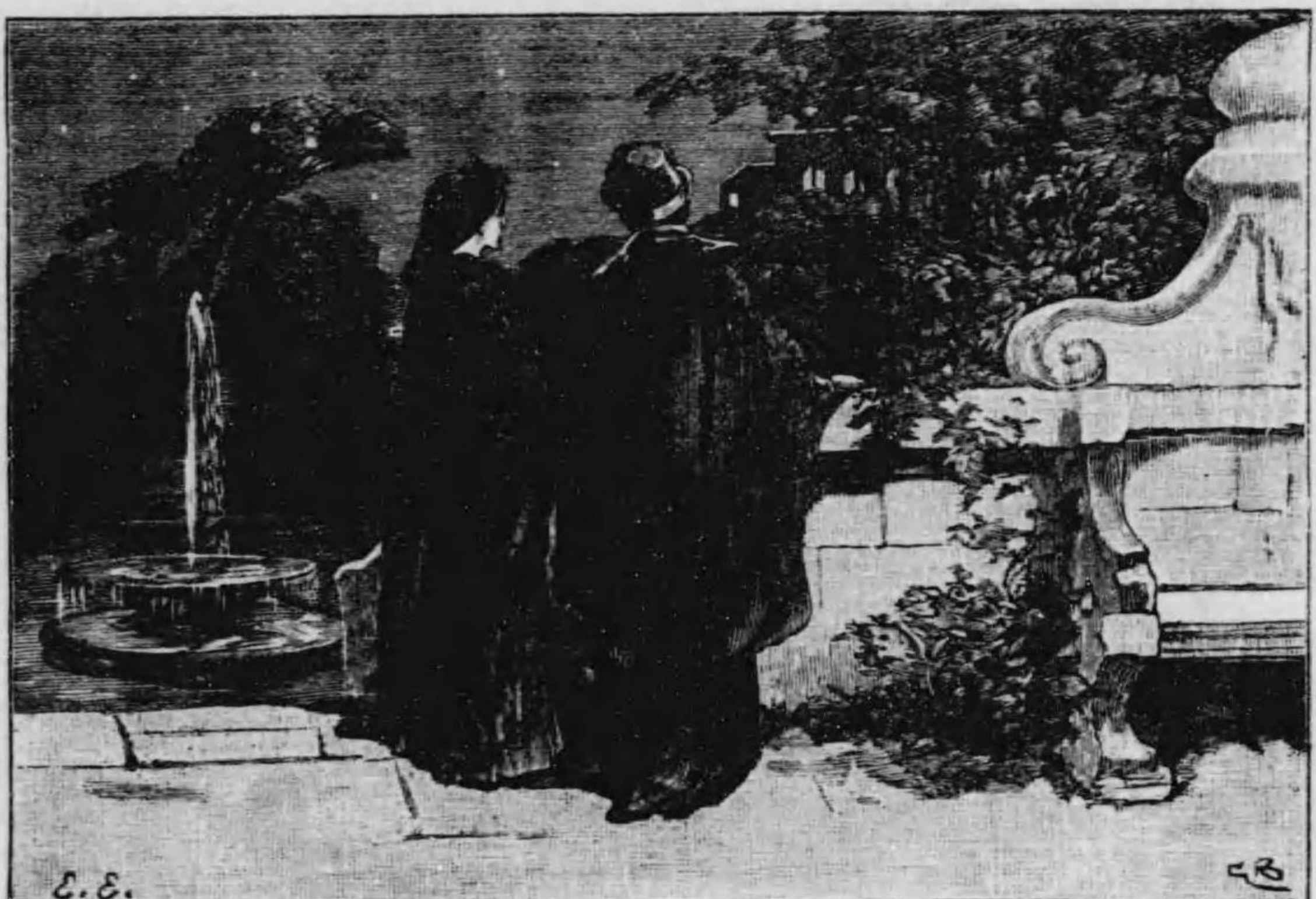
流をも動したなぞと言ひ傳へたのさ。だつてお前、どんな冷淡な、頑固な、兇暴な者だつても、音楽を聞けば、一時は性質が一變せざるを得ないからね。少しも音楽の素養がなく、美しい調を聞いたつて、少しも感動しないやうな者は、きつと謀叛したり、悪計をしたり、強盗をしたりするよ。そんな奴の感情は、夜のやうに遅鈍で、冥府のやうに暗黒なんだ。そんな男は信せられないよ。……あの音楽をお聴き。

ボオシヤとネリッサと出る。

ボオシ あの燈光は客間から射してゐるのだね。あんな小さい燭火の光りできへも、如此遠くまで及ぶんだよ。ちやうど如是な風に、善い行爲が澆季の世を照すのです。

ネリッサ 月が照り渡つてゐましたうちは、あの燭光は見えませんでしたよ。

ボオシ ちやうどそれと同じに、大きな光榮は小さい光榮を消してしまひます。



エ.エ.

王がお出座にならないうちは代理の宰相が光り輝いて見えるけれど、お出座になると、それが、ちやうど内地の小流が海へ落込んでしまふやうに消えてしまふ。……おや！音楽が聞える。

ネリッサ あれはお邸の音楽でございませよ。

ボオシ 何事も周囲との關係だねえ。晝聞くよりも何となく趣味が深いやうに思ふわ。

ネリッサ 静かな故でございますね。

ボオシ 鳥の聲だつても雲雀の聲と同じに聞えませう、何方にも附屬物が無かつたなら。 ナイチンゲールだつても、若し鶯鳥が囁しく鳴立てゝゐる晝日中に囁つたなら、たかゞ鶯鳥ぐらゐにしか聞かれないでせう。 大抵のものは、機に合へばこそ程よく折合つて、正當な名譽をも得れば、眞實の長所をも現すのです、……しづかに！ 月の女神は、今ちやうど戀人のエンデミオンと一しよに眠つてゐなされるのよ、起さないほうがよい。

音楽止む。

ロレン あのお聲は、ボオシやさまざまだよ、きつと。

ボオシ よく知つてゐるわね、盲人が悪い聲なので郭公の聲を覚えてゐるやうに。

ロレン 奥さま、ようお歸りになりました。

ボオシ わたしたちは夫がたの御無事を祈願してゐたのです、ですから其靈験で以

て、多分御安泰であらうと思ひます。 もう歸られましたか？

ロレン まだお歸りにはなりません、其お知らせのお使ひは參つてをります。

ボオシ ネリッサ、奥へ往つて衆人に申しつけとくれ、わたしたちが外出したことは様子にも見せないやうにね。……ロレンゾ、お前さんもね。 ジェシカ、お前さんもね。

タケットの音。

ロレン 殿さまのお著です。 喇叭が聞えます。 奥さま、わたくしどもはお饒舌で

はございませぬから、御心配なさいませぬ。

ボオシ 何だか、晝が罹病つてゝもゐるやうな夜景だねえ。 しかし晝にしては少し蒼ざめ過ぎてゐるわ。 言はゞ、ま、太陽が隠れてゐる時の晝だね。

パッサニオ、アントニオ、グレシヤノ及び其従者出る。

パッサ 太陽は隠れてゐても、貴下さへ出歩いてゐらつしやれば、いつでも晝のや

うに明るい。

ホオシ あかると被仰つて下されば、嬉しいけれど、若しかる、軽いと被仰られたら、如何しませう？ 軽々しい妻は、兎角夫に不快な思ひをさせます。併し何事も神の御差配です。ようお歸り遊ばしました。

バツサ ありがたう。わたしの信友を歓迎して下さい。これが彼人です、これがアントニオです、わたしの大恩人の。

ホオシ 此方の御恩は、決してお忘れになつてはなりません、貴下の爲に大變にお盡しになつたと承はりましたもの。

アント それは最早、とうに済んでしまつたことです。

ホオシ 貴下、まの善く入らして下さいました。迎も言葉では申し盡されませんから、御挨拶は省きます。

グレシ (ネリッサに)あの月が證人だ、貴下の言ふことは無理だ。全く裁判官の書記

に遣つたんですよ。

ホオシ おや、もう口論なの！ どうしたの？

グレシ つまらない金の指輪の事です、先だつて彼女がわたくしにくれた、刃物屋が小刀へ彫附けるやうな見棄てちや厭よつて文句が彫つてあつた指輪なんです。

ネリッサ 文句や値段の事をいふ必要はありません。貴下は、わたくしが彼品をあげました時に、死ぬ時までも身に附けてゐて、死ねば墓へ一しよに埋めさせるつて、誓言をなさいました。わたくしは兎も角も、あゝいふ激しい誓言をなすつたのに對して、斟酌して、大切になさなければならなかつた筈です。裁判官の書記生に遣つたつて！ いゝえ、神さまがわたくしの裁判官です、其書記生とやらは、きつと、鬚なんか生えてやしますまい。そりやその、生えちやゐなかつたけれど、いづれその丁年になりや生える

よ。

ネリッサ

え、生えませうとも、女が丁年になつて男に化るものならばね。

グレシ

いゝえ、全くその、全く、若い男に遣つたんだよ。小僧つ子なんだ、小さい、丈の低い少年なんだ、お前より高かない位の。裁判官の書記生で以てね、よく饒舌る奴で、報酬に是非彼品をくれろと言つたんだ。わたしはどうしてもその否といへなかつたんだ。

グレシ

そりや貴下の方がわるい。遠慮なく申さねばなりません、ネリッサから初めてあげたものを、さう軽々しくお棄てなさるのは、貴下がわるい。誓言をして、決して變らないといふ證據に、信實の錠として、貴下の肉體へお穿めなされたのちやありませんか？ わたしも夫へ一つの指輪をあげて、決して手離さないといふ誓言をして貰ひましたの。現にあそこに居られます。わたしは誓言しても宜しい、夫は、よし世界中の財と取換へても、

パッサ

決して彼品を手離すやうなことはせられますまい。ねえ、グレシヤノ、貴下は酷い、ネリッサが悔しがるのは道理です。わたしが若しそんな目にあつたら、きつと氣が狂ふでせう。

(後白)こりや寧ろ左の手を切つてしまつて、指輪を奪られまいとして、如是になつたと言張つたはうがい。

ネリッサ

パッサニオさまも、御自分の指輪をお遣りなすつたんです、裁判官がくれると強請つたんで。又實に遣らざるを得なかつたのです。そこで其書記生の小僧が、奴は書記として骨を折つたのですから、わたしのを強請つたのです。主従とも、指輪以外のものは取らないのです。

ネリッサ

貴下、どの指輪をお遣りになりました？ よもやわたたくしがあげましたのではありませんまい。

パッサ

失策した上に虚言までも吐くことが出来れば、彼品は遣りはしませんと言

ボオシ

ひたいのですが、わたしの指は、御覽の通りです、指輪は無いのです。ちやうど其通りに、貴下の輕薄な心には眞實といふものは無いのでせう。あの指輪を見るまでは、決して同じ閨では休みません。

バツサ

ボオシヤさん、若し貴下が誰れにあの指輪を遣つたか、だれの爲に遣つたか、何の爲に遣つたかを御承知になり、どの位わたしが煩悶して、指輪の外は何物をも取らないと言はれるに及んで、據らなく彼品を手離したといふことを了解して下すつたなら、そんなに御立腹なさらんでも可いだらうと思ふ。

ボオシ

若し貴下が、あの指輪の値打を御存じであり、指輪をあげました當人の人格を半分だけでも御承知になり、又貴下の御名譽上、あの指輪は是非保存遊ばさねばならないといふことをお考へになりましたなら、貴下はあの指輪を手離しておしまひ遊ばすことは、どうしても出来なかつたであります

バツサ

う。どんな理のわからない男だつて、貴下が熱心に、これは遣られない、とお拒みになつたら、結婚の記念品であるものを、それでもくれいと押強に言張る筈は無からうぢやありませんか？ 成程ネリッサの申す通りでせう。必定どこかの婦人にお遣しになつたに相違ありません。

いゝえ、決して、わたしの名譽をかけて、婦人なんぞに遣したのではない。民事の裁判官に遣つたのです、三千兩を贈らうとしたところが、如何しても受けないで、あの指輪をくれといつたのです。それを一たんは拒絶して、現在信友の命を救つてくれた恩人が、不快な顔をして歸つて行くのを打棄つておいて見たのですけれど、何分にも其儘にしてはおかれなからうぢやありませんか？ そこで止むを得ず、指輪を持たせて其後を追つかせさせたのです。義理を思ひ、恥を思ふと、恩知らずといふ汚名で以て、自分の面に泥を塗るに忍びなかつたのです。姫さん、恕して下さい。輝く

ホオシ

月や星も照覧あれ、若し貴下があの場合にわたなら、貴下みづから、大恩ある博士へあの指輪を遣つてくれと、きつとおつしやつたに相違ない。

其博士とやらを、此邸の附近へ來させないやうに遊ばせ。何故なれば、其人がわたくしの大事の指輪を、貴下がわたくしの爲に必ず保存するとおつしやつた其指輪を持つてます以上は、わたくしとても貴下同様に、かまはなくなるかも知れません。きれいといへば、何でも遣すかも知れません。はい、此肉體も、臥床をも、貸すまいものでもありません。はい、其人と知合になりませぬ。ですから一晩も邸をおあけなさいませぬ。百眼怪のやうに見張つてゐらつしやい。さうでなく、手放してお置き遊ばすと、今はまだ汚れてゐない女の操を誓にかけて、どんな悪い事をするか知れませぬよ。

ネリツサ

(グレシヤノに) わたしとてもね。ですから御用心なさいまし。わたしの儘

グレシ

にさせておくと、其書記生を引入れるかも知れませぬよ。

引入れて見るがい、おれが忽ち取捉へて、商賣道具のペン軸を壓折つてくれる。

アント

此ういふ不慮な事になりましてのは、不幸にも、悉皆わたくしが原因なのです。

ホオシ

お氣づかひ遊ばすな。決して貴下を悪く思ふやうなことはございませぬから。

バツサ

ボオシヤさん、どうか此度の不都合は萬々止むを得なかつたことだと勘辨して下さい。此多數の友人の前でわたしは誓言します、貴下の其美しい眼を誓にかけて……



ホオシ まあ、あれだものを！ わたくしの眼にかけてと被仰れば、右の眼と左の眼と、両方にかけるのでせう。すなはち、それは二心の誓言です、嘸信用が出来ませうよ。

バツサ まあさ、さう言はないで、堪忍して下さいよ。もう決して、二度とは約束を破らないから。

アント わたくしは此身體を、一たんバツサニオさんの爲に抵當に入れましたので、若し指輪を持つて行つた彼御仁のお庇がなかつたなら、最早とうに亡つてゐる一命です。それゆゑ、このたびは、此靈魂を抵當にいたしました、決してバツサニオさんに、二度と約束を破らせないといふ保証人になります。すから、どうか曲げて御勘辨を願ひます。

ホオシ では貴下を保証人にいたします。……之を夫に渡して、前のよりも大事にするやうにおつしやつて下さい。

アント さ、バツサニオさん。決して失しないといふ御誓言をなさい。

バツサ おやく！ こりや博士に遣つた彼指輪だ！

ホオシ あの人に貰ひましたの。バツサニオさん、御免なさい。其指輪を持つて來ましたので、ゆうべ博士を泊めましたの。

ネリッサ グレシヤノさん、わたしも御免なさいね、あの丈の低い書記生の小僧さんも、此指輪を持つて來ましたからね、内しよで泊めてやりましたの。

グレシ こりや宛然、ぬかりも何もしないのに、夏の最中に、道普請といふ格だ！ え、亭主の方は曾ぞまだ浮氣らしいことをしたこともないのに、娯連は、もう已に如是不辱を働くのかい！

ホオシ さう口ぎたなくおつしやるなよ。まあ皆さんが吃驚してさ。……ここに書状があります。ゆつくりお読みなさい。それはバデュアから、ペラリオから來たのです。それをお読みになると、博士はホオシヤで、書記生は

ネリッサといふことが解ります。こゝにゐるロレンソが證人です、わたしらは貴下と一しよに出立して、つい今しがた歸つたのです。まだ家へは入らなかつたのよ。……アントニオさん、ようお出なさいました、わたくしは貴下の思ひもかけてゐらつしやらない吉い消息を貯へてゐます。すぐに此書面を御開封なさい。其中に、貴下の商船の三艘が貨物を豊に積載せたまゝで、思ひがけなく港入をしたといふことが書いてありませう。どういふ不思議な手續で、其書面がわたくしの手に入つたかは、お解りになりますまい。

アント

口がきかれませぬ。

バッサ

ちやあ貴下が博士であつたのを知らなかつたのか？

グレシ

留宅中に泊つたといふ書記生はお前なのかい？

ネリッサ

さうよ、けども只泊つただけなの。男に化けない以上はね。

バッサ

可愛らしい博士さん、貴下なら、留宅中にお泊りなすつたつて關はない。

アント

奥さん、貴下のお庇で命も財産も拾ひました。此書面によると、わたくしの持船は安全に着港したに相違ありません。

ホオシ

ちよいと、ロレンソ！ お前さんにも、わたしの書記生が何やら好い報知を持つて來てゐますよ。

ネリッサ

さうです、さ、無報酬でお渡しませう。（證書を渡して）さあ、これは財産家の猶人からの特種財産譲渡證書です。受取人は貴下とジエシカさん、猶人が死ねば、其遺産の全部が貰へるのです。

ロレン

ありがたうございます。飢えてゐる者へ靈果が降つて來たやうでございます。

ホオシ

もう大抵明けさうです。貴下がたは恐らくまだよくお解りになりますまい。まゝ入りませう。さうして彼方で存分にお尋問下さいまし、何事でも

有のまゝにお答しませう。

クレシ

それがよろしい。そこで第一に、わたしの妻に宣誓させて尋問すべき事は、もう朝まで二時間とはないのだが、いつそ明日の晩まで待つか、又は直に寝るかといふことです。併し成るべくは夜が明けても暗からんことを望むね、博士の書記生と寝るまでは。さて今日より以後、最も警戒を要する一大事は、ネリッサの指輪を決して失さないやうにする事だ。

皆々入る。

* * * * *

エニスの商人(完)

大正三年六月十二日印刷
大正三年六月十五日發行

正價 金壹圓參拾五錢

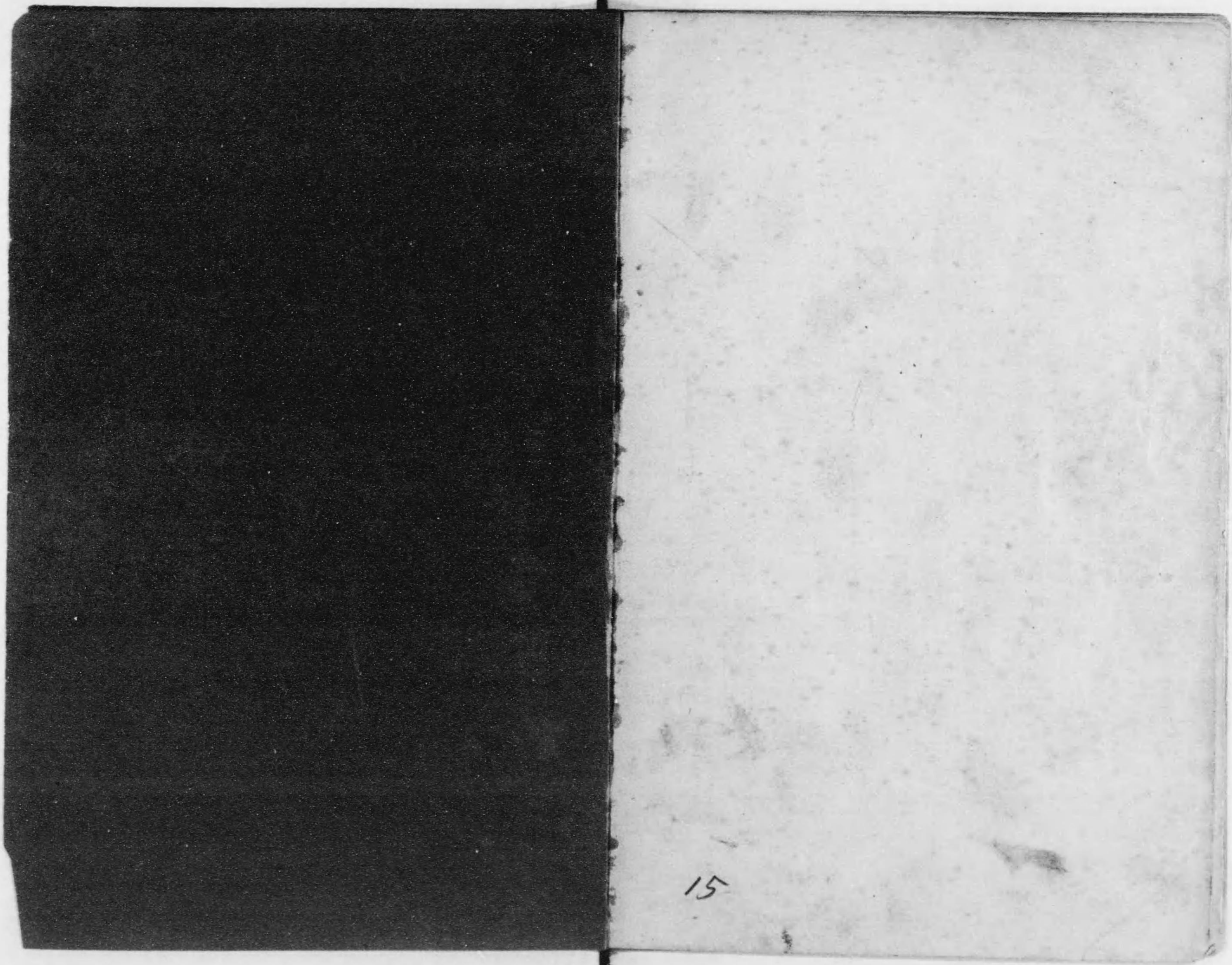
(製復許不)

發行所

譯者	東京市牛込區余丁町百十四番地	坪内 雄藏
發行者	東京市小石川區音羽町四丁目十一番地	荒川 信賢
發行者	東京市神田區裏神保町九番地	坂本 嘉治馬
印刷者	東京市牛込區櫻町七番地	渡邊 八太郎

東京市牛込區
早稻田大學出版部
合資會社 富士山房

>[刷印社會式株刷印清日]<



15

338

293

終

